

普及センターだより

土 浦



令和5年9月4日 No.49
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
土浦地域農業改良普及事業推進協議会
電話 029-822-7242
FAX 029-822-7370
URL https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00_index/index2018.html



日本農業賞授賞式の様子



JA やさと有機栽培部会の皆様

JA やさと有機栽培部会は有機農業の確立を目指して、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者や営農団体を表彰する「第五二回日本農業賞」の集団組織の部で、最高位の大賞を受賞しました。同部会は、平成九年に設立され、有機農産物のレタス、ニンジン、ネギ、きゅうり等を約四〇種類生産しています。有機栽培へのこだわりは「すべては、「安全・安心」な農産物を求める消費者のために」を合言葉に、化学農薬や化学肥料を使用しない栽培をしています。特に土づくりにこだわり、緑肥や地元畜産農家からの家畜糞堆肥等を活用し、環境に配慮した農業に取り組んでいます。病害虫への対応は輪作を基本とし、防虫ネット等を活用しています。平成一三年以降有機JAS認証を部会員全員で取得した有機栽培を現在も続けています。

同部会では、新規就農研修ができる「ゆめファーム」(JA やさと)、「朝日里山ファーム」(石岡市)とJA、行政機関等が一体となり有機農業の担い手を育成しており、研修終了後にはJA やさと有機栽培部会の一員となっています。このように、有機農業を中心として地域の農業基盤を維持し、地域の活性化に繋がっています。

活力があり、県民が日本一幸せな県を実現しましょう！

表. 散布方法による作業時間

	ドローン	慣行法
液剤（殺虫剤）	1.2分	10分（動力噴霧器）
粒剤	2分	8分（散粒器）
肥料	6分	15分（動力散布機）

※面積は10aあたりで、試験は約30aの水田で行いました。一筆の面積が大きいほど省力化できます。

近年スマート農業の分野では、農業用ドローンの活用が拡大しています。今回は水稲栽培における薬剤散布の事例について紹介します。

土浦地域の水稲栽培では、ドローンは主に薬剤散布に利用されています。令和三年から取り組んでいる実証試験では、液剤（殺虫剤）散布で10aあたり約一分で散布でき、動力噴霧器で散布する場合と比べると約90%の省力化ができました（表）。

コスト面を考慮すると、延べ利用面積が約20ha以上だとメリットが大きくなります。導入を検討されている方はぜひ普及センターにご相談ください。

営農トピックス



農業用ドローンを活用した水稲栽培について



写真 塊根の腐敗

出展：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（O1020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より
https://ibarakinews.jp/photo/16240247312107_1.jpg

九州をはじめとして全国三都道府県でサツマイモ基腐病が発生し、県内でも令和三年、四年に発生が確認されました。発生すると封じ込めが困難なため、十分な防除対策により侵入を防ぐ必要があります。

本病の病原体は糸状菌（カビ）で、苗床や本圃で発生すると地際の黒く褐色の変色、茎葉の変色、しおれ、枯死等を引き起こします。貯蔵中の塊根で発生すると、つるに近い側からの腐敗症状が見られます（写真）。

防除対策のポイントは、「持ち込まない」「増やさない」「残さない」の三点です。原則ウイールスフリーの苗を使用すること、種イモから採苗する場合は無病

営農トピックス



サツマイモ基腐病の侵入防止にご協力ください

健全な種イモを選び、種イモや切苗の消毒を徹底することが大切です。

栽培中は本病の症状がないかよく観察し、疑わしい症状が見られたら普及センターまでご連絡ください。

営農トピックス



なし「恵水」及び「甘太」の収穫適期について

「恵水」は茨城県オリジナル品種のなしです。収穫始期は、満開後一三五日〜一四〇日頃であり、令和五年の土浦管内では、八月二二日頃から収穫が始まることと予測されました。令和五年は、異常な猛暑により収穫が前倒しになっています。

「恵水」の収穫基準は次のとおりです。▼収穫初期は熟度基準三とし、果面の黄赤褐色の占める割合が七〇%以上となり、ていあ部に緑色が残っている状態が目安です（写真）。▼夏季の高温等により果肉先熟が予想される場合には、熟度基準三より着色が進んだ果実で、やや過熟気味の果実が見られることがあるため、随時試し割を行い、収穫遅れのないよう注意します。▼

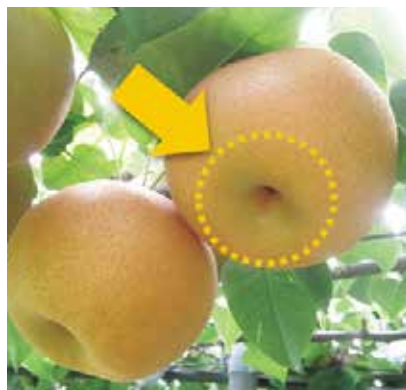
収穫後半は熟度基準一〜二（果面全体の黄赤褐色の占める割合が四〇〜六〇%）での収穫が可能です。

グラジオラスは、花穂が伸びて収穫が近づいた時期に台風等で強風を受けると、倒れて収穫ができなくなったり、株が傾いて花穂が曲がり品質が著しく低下したりしてしまいます。

営農トピックス



グラジオラスの防風対策について



（写真）ていあ部に緑色が残る状態

新品種「甘太」は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された晩生品種で、高糖度で良食味の新品種です。

過去の園芸研究所の「甘太」の収穫始期の満開後日数は平均一五九日です。令和五年の土浦管内では、四月四日を満開日とした場合、九月九日頃から収穫が始まることと予測されます（最大誤差六日）。

実際の収穫は、試食を行い食味に問題がないことを確認してから行いましょう。



現地での防風対策の様子

防風対策として、土浦地域では近年、防風ネットの導入が進んでいます。防風ネットを畑の周囲や、いくつかの畝ごとに設置することで、強風による倒伏や折れの被害を軽減することができます（写真）。令和二年一月の台風後の調査では、ネット設置区では収量や品質の低下が抑えられ、減収軽減効果が認められました。

防風ネットの導入には一〇aあたり約二二万円のコストがかかりますが、もしもの時には減収が軽減でき、コストの回収が期待できます。また、一部を遮光ネット設置資材と共有すれば、設置コストを抑えることができます。気象変動に伴う災害が増加している近年、もしもの時に備えましょう。



認定品紹介
QRコード



PR動画
QRコード



土浦市
土浦ブランドをご紹介します

土浦市で生産される農林水産物及び加工品で、土浦の恵みとして人を結びつけ、まちの賑わいへとつなげていくものを「土浦ブランド」と認定し、多くの方に好評をいただいております。現在三八品目が認定されている「土浦ブランド」からお気に入りを見つけてください。

認定品の詳細及びPR動画は、土浦市HPや添付のQRコードからご覧ください。



かすみがうら市
推奨品「湖山の宝」とは、当市のブランド化推進会議において審査の上、推奨品として認証された農林水産物やその加工品を示すブランドネーミングです。

推奨品それぞれが、地域食材をふんだんに使用したこだわりの品々で、現在三四種類あります。

現在、当市では、新たな農林水産物や加工品を募集しています。認定されると、左記の推奨品ロゴマークを使用することができます。（三年有効・更新あり）

丹精込めて作られた商品を市推奨品にエントリーしてみませんか。応募に関する詳細については「湖山の宝」公式サイトをご覧ください。



石岡市
いちご直売・観光農園のご紹介

石岡市は各地でいちごの栽培が盛んに行われています。また、市内には一四店舗で直売が行われている他、摘み取りで新鮮なおいしさを味わうことができます。観光農園があるため、県内外から消費者が訪れています。

近年は、食味に優れた茨城県オリジナル品種「いばらキッス」を導入し、さらなる品質向上に取り組んでいます。直売は一月から始まる予定です。

農業三士 認定者・退任者の紹介

今年度、三名の方が農業経営士・女性農業士として茨城県知事の認定を受けました。

土浦市 飯田 公巳 氏 露地野菜(れんこん)



高い生産技術を持ち、高品質なれんこんを生産しており、生産・販売組織の中心人物として活躍。

農業経営士



石岡市 飯村 伸一 氏 果樹(なし)

高品質ななしを生産しており、産地において指導者の役割を果たすなど、産地全体のレベルアップにも貢献。

女性農業士



かすみがうら市 豊崎 静代 氏 水稻

米の生産から販売までを行うほか、Webを活用した広報コンサル等多方面で活躍。

六名の方が三士を退任されました。長年にわたりご尽力ありがとうございました。

農業経営士 石岡市 谷田部真雄 氏
青年農業士 土浦市 野口 重典 氏

石岡市 鈴木 拓也 氏
石岡市 酒井 寛幸 氏
かすみがうら市 坂 嘉隆 氏
かすみがうら市 椎名 正勝 氏

○農業学園の紹介

就農して間もない方や独立就農に向けて研修中の方を対象に、農業経営に関する基礎的な知識・技術の習得、仲間づくりを目的とした各種講座を開催しています。

今年度は、稲敷地域・つくば地域と合同で「広域講座」として開催し、六月に開講式、七月に農業適正講座を開催しました。

時期	講座名
8月	【広域】有機・土壌講座
9月	【広域】れんこん講座
9月	【広域】ネギ講座
10月	【広域】農機メーカー視察研修
11月	【広域】東京市場見学
12月	【広域】農作業安全講座
1月	【広域】県南地域青少年プロジェクト合同発表会
2月	【広域】水稻育苗講座
2月	【閉講式】鳥獣害対策講座

○アグリライフセミナー

当普及センターでは、管内の女性農業者を対象に、経営者としてのスキルアップに向けた学習会及び交流会「アグリライフセミナー」を開催しています。昨年度は、先輩農業者の事例発表会や現地検討会(茨城県園芸研究所・いちご生産者)、加工研修会(魚・さつまいも)を行いました。これらの講座に興味がありましたら、お気軽に普及センターまでご連絡ください。

○6次化コンテスト

令和四年一二月七日、農業総合センターにおいて、「いばらき農の6次化商品コンテスト」が開催されました。本コンテストでは、農業者が自ら生産した農産物を原料として加工、販売している商品を対象に、各方面の専門家が総合的に評価するものです。

管内からは、株式会社ひのでや お芋屋さんのお店サンパタータ(かすみがうら市)が出品した「お芋屋さんの焼きいも丸ごとポタージュ」が特別賞を受賞しました。

受賞を受けて、令和五年五月一三日、一四日には茨城県のアンテナショップ「イバラキセンス」での販売会を実施し、都内消費者へPRを行いました。

普及センターでは今後も6次産業化による農業経営体の所得向上に向けて、支援をしていきます。

